

エリの助けの手

レベッカ・ライス・バーキン
(ほんとうにあったお話をもとに書かれました。)

「わたしはふたつの手がある
それは……いろいろのこと
します」(『子供の歌集』126)

ある土曜日の朝エリはゴール
内で身をかがめて、ボール
にとびかかろうとしていました。
エリは飛び上がったが飛ん
だりして、ボールをネットに入
れないように最善をつくしま
したが、そのむずかしいこと！
そして試合が
終わる直前、ボールが手をす
りぬけて
しまいました。相手のチーム
に点が入ってしまったのです。
エリのチームは負けました。
エリは悲しくてたまりませ
んでした。

次の日、教会で、エリは初
等協会のクラスにゆっくりと
歩いて行きました。まだ気持
ちは晴れません。

友達のケートが教室の外に
いるのが見えました。ケート
のお母さんは、ケートのピン
ク色の車いすを教室の中にお
して行きました。お母さんは
自分のクラスに行く前に、ケ
ートをだきしめました。

「やあ、ケート」とエリは
言いました。
ケートは返事をしたり手を
ふり返したりはできません
でしたが、いつもエリの目
をまっすぐ見つめて、声
が聞こえていることをエリ
に知らせました。

エリが「やあ」と言うと、
いつもならケートはにっこ
り笑ってくれましたが、今
日はちがいました。ケート
は悲しいのかな。エリは考
えました。ぼくにはその気
持ちは分るよ。エリはまだ、
相手のチームが決勝点を
決めるのを止められなかつ
たことを悲しく思っていました。

エリがファンとマケルのと
なりにすわると、ヤング姉
妹がクラスを始めました。
すると、ケートがしくしく
泣き始めました。時々、ケ
ートは体のいたみのせいで、
じっとすわっているのがつ
らいことがあります。



「ケート、今日はたいの？」
ヤング姉妹がたずねました。

ケートは泣き出してしま
いました。「初等協会の歌
が助けになるかもしれない
わ」とヤング姉妹は言
いました。

クラスみんなで歌い始
めました。ケートは音楽
が大好きでした。いつも
は楽しそうな音を出しな
がら一緒に歌います。でも
今日は、ケートは泣いて
ばかりいます。

どうしたらケートの気分
がよくなるだろう？ エリ
は考えました。

すると、いい考えが思
い浮かびました。「そう
だ！」エリはヤング姉妹
に言いました。「ケートの
車いすを少しだけおす
ね。」

エリは、ケートの機嫌
をよくさせたいときに、ケ
ートのお母さんが車いす
をやさしくおすのを見た
ことがありました。エリは
急いでケートの所に行
き、車いすをゆっくりと
前後にゆらし始めまし
た。

すると、ケートはなき
やみました。「次はぼく
がやってもいい？」ファン
がたずねました。

「ほくも！」マケルも
言いました。ヤング姉妹
がレッスンを教えている
間、エリと友達たちは、
かわるがわるケートの車
いすをおしました。ケート
は、ほほえみました。部
屋全体が前より明るく
感じられました。

クラスが終わるころには、
みんなが笑顔になって
いました。

「ケートを助けると、幸
せな気持ちになるよ」と
エリは言いました。



「うれしいわ」とヤング
姉妹が言いました。「天
のお父様も喜んでおら
れるわ。天のお父様はケ
ートを愛しておられて、
ケートの気分がよくなる
ように望んでおられるの
よ。わたしたちは天のお
父様の助け手になること
ができるの。」

エリはケートに目をや
りました。「君もぼくを
助けてくれているんだ
よ」とケートに言いま
した。「君が笑ってく
れるときにね。」ケート
はにっこりと笑いま
した。

エリは教会からの帰
り道、夏の晴れた日の
サッカー場のようにあ
たたかい気持ちがあ
りました。ボールを全
部キャッチすることは
できないかもしれない
けど、この手で人を
助けることはできる
んだ。●

筆者はアメリカ合衆国ユタ州在住です。



「心からの親切と奉仕を通して、
それを受ける側の人との間に友情
が生まれます。」

十二使徒定員会会長代理
M・ラッセル・バラード会長
「愛ある奉仕を通して喜びを見いだす」
「リアホナ」2011年5月号、48

イラスト/メリッサ・マンウィル